

令和5年度 福島県立聴覚支援学校会津校 学校評価 アンケートまとめ

【評価者 保護者6名、教員6名】【評価基準 A: 良い、B: やや良い、C: やや不十分、D: 不十分】【意見・要望等 ○: おおむね達成できた、△: さらに取り組むべきこと、●: 課題(改善が必要)】

	今年度の取組		評価				改善を要する事項・意見・要望等
			A	B	C	D	
I-1 自立と社会参加に向けた指導の充実	一人一人の自立と社会参加に向けて教育的ニーズや合理的配慮について、本人及び保護者との合意形成を図り、「個別の指導計画」を活用し、学習指導の充実を図り進路の実現に努めます。	保護者	6				
		教員	5	1			○学期ごとに個別懇談を実施し、個別の指導計画を資料としながら話し合いをすることができた。
	交流及び共同学習、地域の資源を活用した集団での学びや体験的な経験を通して、社会性を伸ばし、自ら考え判断して行動できる力を育てるために、保護者や相手校と共通理解を図りながら推進します。	保護者	1	4	1		○交流はとても充実していて、良い時間を過ごせていると感じます。 △日程がいきなり決定するので、もう少し予定日の候補日だけでも事前に伝えておいてもらえると助かります。 △できれば、交流校との交流を学期ごとに1回は入れてほしいです(一緒に活動できるのが、限られているのは、分かってはいますが…)
		教員	4	2			○近隣子ども園との交流について、相手校の担当者と事前に活動内容等を確認し、計画どおりに交流を進めることができた。 ○交流を行った際は、記録した写真や動画を活用しながら、保護者と交流の様子を確認することができた。 △居住地校や近隣子ども園との交流の日程調整が直前になりがちなので、早めに調整する必要性を感じます。 △地域支援センターと連携して、聴覚障がい理解授業による啓発も継続できればと考えます。
	「個別の教育支援計画」を活用し、保護者及び関係機関との支援体制の経過や合理的配慮を確認し、発達段階に応じた教育支援を行います。	保護者	6				
		教員	6				○個別懇談で個別の教育支援計画について確認し、授業の中で発達段階に応じた支援につなげることができた。
I-2 主体的に思考する力と豊かな心の育成	子ども一人一人の言語力を高めるとともに、個別最適化された学習、協働的な学習、探究的な学習へと、学びを変革し、主体的・対話的で深い学びを大切にしながら学力の向上に努めます。	保護者	6				○いろいろな場面で発表する機会があり、伝えようとする力がついてきていると思います。
		教員	5	1			○一対一または少人数での学習が多い中、子どもたち同士のかかわりを引き出したり、授業の中で、他者の意見に触れる機会を工夫したりし、対話的な学び、協働的な学習を意識してきたと考えます。 △話し合い活動については、実態に応じた話題の設定や継続した取り組みなど、一層の工夫が必要と感じます。
	学習活動においてICT機器を積極的に活用し、探究的な学び進め、教育の質の向上と情報活用能力の育成を図ります。	保護者	6				
		教員	5	1			△今後、学校内だけの活用でなく、日々の出来事を保護者と共有し文章化につなげ作文に表したり、長期休業期間に家庭へ持ち帰り、家庭学習や運動習慣の定着に活かしたりできるとよい。

	3	地域との密接な連携を大切にし、読み聞かせサークル等のボランティア等を活用し、様々な人との触れ合いや体験を通して幼児児童の豊かな心を育てます。	保護者	4	2		△ボランティアをされる側だけでなく、する側にも参加できたらいいと思います。 △手話が第一言語なので、手話で関わる(親しむ会)の交流日をもう少し増やしてもらえると嬉しいです。
			教員	6			○今年度も毎月「ピッキオさんによる読み聞かせ」や6月と10月に手話サークルとの「手話に親しむ全体自立活動」を計画どおりに実施することができた。
I-3 一人一人の実態を踏まえた言語力の育成	1	幼児児童が多様なコミュニケーション手段を活用し、学力と言語力を高められるよう研修の充実を図り実践力を高めます。	保護者	4	2		○外部の先生方にも定期的に子ども達の成長を見守っていただけてありがたいです。 △もう少し、どんな活動をしたのか情報をもらえるといいなと思います(活動の内容だけでなく、家庭でやった方がよいことなどがあれば)。
			教員	6			△多様なコミュニケーション手段が、例えば何であるのか明記するとより分かりやすい。
	2	聴覚補償、情報補償機器、音声、文字、手話、指文字等のコミュニケーション手段を適切に活用して、自分の考えを相手に伝えるコミュニケーション能力と分かりやすく伝えようとする意識を高める指導を行います。	保護者	5	1		
			教員	6			△多様なコミュニケーション手段の必要性について、保護者に繰り返し説明し、理解を求めていく働きかけの継続は必要だと考えます。 △教員の手話や発音誘導サイン、口形文字などに対する専門性の向上の引き続き取り組むべき課題と考えます。
3	言語活動の充実を図るため、外部講師の活用や研究授業を積極的に行い、授業改善に努めます。	保護者	4	2		△言語のみならず、身体能力的なところや科学的なところも、もっとほしいです。 △家庭でも取り入れられる内容があったら、教えてほしいです。	
		教員	6			○今年度も、9月と11月に外部講師を招いた校内研修会を開催し、外部講師から授業について指導助言をもらい、授業改善に生かすことができた。	
II 安全で安心な学校づくり	1	他者の気持ちや考えに気づき、主体的に考えて行動する力を育むと共にいじめに関する教員の研修を行い、いじめ等の未然防止に取り組みます。	保護者	6			
			教員	6			○計画どおりに、6月と11月にいじめのアンケートと個別面談を実施することができた。
	2	感染症予防や校舎内外の安全点検を行い、安心安全な学校生活を確保するとともに、個人情報及び情報セキュリティの管理を徹底します。	保護者	6			
			教員	6			
	3	災害や犯罪等への意識を高め、自らの判断で行動できる力を育てるために、防災・防犯教育や放射線教育、がん教育等を充実します。	保護者	5	1		
			教員	5	1		△幼児児童の実態から、放射線教育やがん教育の分野は、扱い方が学級により差があるので、外部専門家を活用する、校外学習時に設定するなど、工夫が必要と思います。

	4	運営計画に基づき、全職員の共通理解を深め、安心安全な医療的ケアを実施します。	保護者	4	2			
			教員	6				○運営計画に基づき、委員会の開催や緊急時の対応訓練や研修を実施し、教員間で共通理解を図ることができた。
Ⅲ センター的機能の充実	1	医療や福祉等の関係機関と地域支援センターが連携し、乳幼児早期教育相談の充実を図ります。	保護者	5	1			
			教員	6				○コーディネーター兼教育相談担当者を中心に、医療や関係機関と必要に応じて連絡を取り合いながら、乳幼児早期教育相談を充実させることができた。
	2	地域の学校等に在籍する聴覚障がいのある子どもについて、教育関係者や保健師等との連携により、一人一人に応じた支援を行うとともに、地域のニーズに応じた研修会や学習会を開催したり、情報を発信したりします。	保護者	2	4			△その子に合った、医療的なアドバイス等が聞けるとうれしい。
			教員	5	1			○保護者や関係機関を対象とした公開学習会を外部講師を招いて計画どおりに、7月と9月に実施することができた。2月には、保護者を対象とした外部講師との座談会を実施する予定である。 △アンケート等で、地域のニーズや保護者のニーズの把握に努めているが、一層の工夫が必要。 △研修会や学習会開催時には、託児ができる体制を作ることができれば、参加者が増えると思います。
	3	地域の関係機関と連携し、校内の幼児児童や保護者への支援を行います。	保護者	3	3			
			教員	6				